

平成 27 年度 妙高市生活科・総合部 活動報告

部長 鹿住 寿和

1 研究主題 子どもが主体となる生活科、総合的な学習の時間の充実のための支援のあり方

2 研究の概要

- 4月22日(水) 組織作り、研究主題の設定、年間事業計画の立案
- 8月20日(木) 講演会
講師；教諭 樋口 英樹 様（上越市立春日小学校）
演題；子どもの学びが連続・発展する単元構想や授業づくり
- 11月10日(火) レポート研修、情報交換、今年度の活動反省

3 研究の実際

(1) 講演会「子どもの学びが連続・発展する単元構想や授業づくり」

春日小学校は、昨年度、全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会において発表を行った。樋口教諭は研究主任として研究推進の中核を担っている。今回は自身の2年生と4年生の実践例をもとに講話をしていただいた。



2年生の実践「のぞみっ子畑でなかよくなるろう」では、児童の主体性を重視することから一人一区画の畑を担当させながら栽培活動に取り組ませた。また、1学期、2学期と同様な活動を仕組むことで、2学期は児童に委ねる部分を増やした。さらに、2学期はグループ栽培にして、共通の目標に向け、児童が話し合ったり、譲り合ったりする社会性育成の面での育ちも目指した。

4年生の実践「いざ出陣!!はばたき春日山応援団」では、春日山を活動のステージに1学期は環境保全、2学期は観光活動に取り組ませた。その際も、学習過程を両学期とも「出会い」→「活動1」→「活動2」→「活動3」→「まとめ」と同じにすることで、児童に委ねる部分を増やした。また、1学期は児童の主体性育成に重点を置いた活動、2学期は社会性育成に重点を置いた活動を実践した。

(2) レポート研修、情報交換

こども園・小学校低学年グループと小学校中・高学年、中学校、特別支援学校グループの2グループでレポート研修、情報交換を行った。

園・低学年グループでは、家庭の協力、書くための指導を充実させることが重要であることや、全員で一つのものを作ることで探究心が高まり、発表につなげることができたなどの意見が出された。一方、中・高学年以上のグループでは、児童の意識の流れを大切に単元構想が重要であることや、発表力を伸ばしたり、思考の深まりを日常生活の中の行動化につなげたりする手立ての工夫が必要であるなどの意見が出された。

4 成果と課題

夏の研修では、総合学習の単元構想づくりや授業づくりに向けた取組を具体的に聞くことができ、大変有意義であった。今後も、特色ある生活科、総合学習に取り組んでいる実践校に学ぶ研修を継続したい。その中で、中学校での実践や保・小・中の連携を視野に入れた実践の研修を考えていく必要がある。